

# 「ときめきのとき

## ～文化とは～」

文化庁長官、金作家

宮田 亮平氏

### 文化は面白い

私が在籍していた東京藝術大学では、上手い下手とか関係なく、人と違うことをしていました。面白くて、何かワクワクしたことを、表現し完成させればいいのです。そうすると、それが末代に残っていくのです。

### 文化を知り、文化で稼ぐ

インバウンドの訪日外国人は一気に増加し、直近 5 年で 3 倍に増加しています。経済を動かしていくには、このインバウンドを活かすべきで、加えて、必ずリピーターになってもらうことが大事だと思っています。

また、文化は豊かな人の添え物ではなく、文化は、稼げます。私が文化庁長官へ就任当初、「文化で稼ぐ」と発言した時は、周りの役人は腰が引けていて、総スカンをくらいました。

良い文化は、時間が経つと価値が上がってきます。自身の審美眼で信ずることが重要で、「これは絶対に後世に残る」、「これは重要文化財になるかもしれない」と、そこに夢を持つことによって、新たな世界観が生まれるものと信じています。

ただただ国宝を大事にするだけではなく、重要文化財のレプリカを作って、多くの人に見てもらいたい、感じてもらいたいと考えています。別に偽物を作っているという意味ではなくて、良い文化をもっと多くの人に知ってもらいたいという一心でやっています。

## 文化庁を変える

文化庁は昨年で創立 50 周年、「文化庁は面白い」をコンセプトに掲げています。

まず、文化庁のウェブサイトが面白くないから変えました。次に、文化庁の看板も変えました。

最初はみんなに「えーっ」と言われましたが、「えーっ」と言われた時はチャンスであり、新たな歴史をつくる第一歩となります。また、みんなに「えーっ」と言われることが、大きな力にもなるのです。

また、皇室に献上された貴重な文化財の多くが公開される機会もなく、眠ってしまっていることを問題視し、「紡ぐプロジェクト」を立ち上げました。

このプロジェクトで、若冲や狩野永徳などの素晴らしい作品を公開し、広く国民に理解をしてもらい、そして世界へ発信できたらと考えています。

私は「文化は面白い」を掲げて、普段目に見えているものや目の前に存在するものを少し変えてみると、面白いものに変わることに気が付き、それを続けているのです。

ここにいるリーダーの皆さんもやり方次第で、牙城を崩すことができると思います。視線を変えて、柔軟な発想をしてみることで、新たな価値が生まれることを信じて頑張っていたきたいと思っています。

文化は面白く、人を幸せにする力があります。その途中経過として、新たな考えを創出しようとする時、勇気が必要であり、加えて殻を破る、視線を変えるなど、色々な要素が組み合わさって生まれるものなのです。

また、皆さまがそれぞれのお仕事を担っている場においても、面白い新たな表現や価値が生まれるのではないかと信じています。そして、業績のグラフも右肩上がりになってくれたら、有り難いと思っています。本日はありがとうございました。